

ポスター③

「緩和薬物療法研修会」 ～患者・患者家族の信頼を得るために～

人材開発部研修担当
○長久保 久仁子（日暮里店）
加藤 香里（田端店）

緩和医療や在宅医療が進むにつれ医療用麻薬処方箋が薬局に持ち込まれる機会も増えつつある。どこのミキ薬局へ麻薬処方箋が持参されても、質の高い服薬サポートを行えることが重要だと考え、新しい形式のロールプレイを取り入れ、より実践型の研修の開催を試みた。

【目的】患者様の痛みを取り除くために、必要な知識やコミュニケーションスキルを学び、服薬サポートに活かす

【内容】全2回シリーズ。各2時間

1回目（講義形式で2時間）

講師：大日本住友製薬株式会社緩和領域専門担当者

「WHO方式からオピオイド使用の基本原則を理解する」

「がん患者さんの神経障害性疼痛と呼吸困難」

「オピオイドの副作用対策と服薬指導」

「オピオイドスイッチングにおける薬剤師の役割」

2回目（1時間講義、1時間ロールプレイ、計2時間）

講師：同担当者、ロールプレイ担当 長久保

「がんの痛みの評価」

「医療用麻薬に対する様々な不安や誤解の払拭」

「服薬サポートロールプレイ（患者、薬剤師、観察者となりフィードバックを行う）」

【方法】2回目の研修終了後、参加者へアンケート調査を行い、研修の効果を検証する。

【結果】研修前に抱いていた医療用麻薬処方せんに対する不安を研修後取り除けたかどうかを検証した結果、9割の薬剤師が「不安はあるが以前より自信がついた」と回答した。また漠然とした不安ではなく、不安な点が明確になったことで今後何を学ぶべきか個々に感じたようだ。新しい形式のロールプレイを行った感想や今回の研修全体に対する意見も多数寄せられた。

【考察】結果から研修の成果や効果が見えてきたので今後「緩和薬物療法研修会」をどのように発展させ、継続させるか検討していきたい。